

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670201062号
法人名	社会福祉法人 祥健会
事業所名	グループホームとうごう苑 (南棟)
所在地	鹿児島県薩摩川内市東郷町斧渕2636番地1 (電話) 0996-21-6551
自己評価作成日	平成25年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「やさしい手に 温かい心を添えて 住みなれた地域の中 明るい笑顔で 心のこもったふれあいと その人らしさを大切にします」の理念を掲げ、利用者が毎日を笑顔でいきいきと居心地よく過ごしていただけるよう、スタッフ、家族、地域の方々、ボランティアの方々と協力し、取り組んでいます。利用者の重度化も進んでいますが、花見、ドライブ、夏祭り、そーめん流し、敬老会、一日遠足、クリスマス会などを企画し、少しでも、外出し、家族や地域の方との思い出を作っていたるよう取り組んでいます。また、利用者を含めた避難訓練や年一度の地域の方々も含めた夜間避難訓練など実施し、防災や安全に暮らしていただく配慮も行っています。また、今後ますます進むであろう利用者の重度化に対応するため、医療との連携や、スタッフの質とサービスの質の向上のため、資格取得を目指し、各種研修会に参加するなどして、スタッフ一同、協力しながら、毎日業務に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今も開設当時と変わらない木の温もりや清潔感を維持し、施設管理の行き届いたホームである。自衛隊員のボランティアを得てホーム周辺の清掃も行き届いている。離職者も少なく働きながら資格取得にチャレンジしており、ほとんどの職員が有資格者である。重度化の利用者が多くなる中、職員は利用者へ意欲を持たせる工夫に努め、植物を育てたり、体操や歌を歌ったり、1日1回はそれぞれの利用者に笑ってもらえるよう心がけ支援している。地域の「いきいきサロン」にも参加しており、年に2回は「いきいきサロン」の場としてホームを開放している。年1回の防災訓練以外にも数回、利用者を含めた自主訓練に取り組み、確実な避難誘導が出来るように備えている。今後、ますます進むであろう重度化や終末期にも主治医、家族、職員がチームとなって本人、家族の思い・希望に添えるよう看取り支援にも取り組んでいる。職員同士、仲が良く意見や要望など発言しやすい職場である。事例発表会も行っており職員全員で検討しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中、家庭的な雰囲気と明るい笑顔を大切に、心のこもったふれあいで、利用者を支えるよう地域密着型サービスの理念を作り、実践している。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を職員全員で意見を出し合って作成し、申送り時に唱和、勤務表にも明記し理念の共有を図っている。スタッフ会議時に振り返る機会を設け、理念に沿ったケアの統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会大掃除や「いきいきサロン」への参加、夏祭りなどの交流など、日常的に交流している。	中学生のサマーボランティア、職場体験や高校生実習の受け入れを行っている。冬場はホームにおいて、地区の「いきいきサロン」を実施、認知症について講話、啓蒙を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	いきいきサロンや夏祭り等に、利用者と共に出かけたり、避難訓練に地域の方に参加していただいたり、ボランティアの方に、認知症の方の理解や支援の方法を学んでいただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回に開催し、利用者状況や運営、活動実績報告をするほか、避難訓練のあり方や事故報告や対応策などについて相談し、助言や協力をいただいている。	定期的に民生委員、老人クラブ、地域住民、家族、利用者代表、市役所職員、社会福祉協議会職員の参加を得て開催している。行事、入居者状況、活動実績報告を行っている。事故事例検討会議も行い、参加者からの意見提案を貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進委員会やホーム行事に参加していただき、福祉事業などで分からないことやボランティア依頼など、日頃から密に連携し、協力をもらっている。	運営推進委員会やホーム行事に参加、助言、指導いただいている。高齢のお祝いを市より届けてもらうこともある。また、事務手続きなど、日頃より連携を密に取り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する研修会を定期的実施し、スタッフ全員が理解している。業務の中でも、常に身体拘束にならないか、スタッフ同士話し合い、代替ケアがないか検討して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、法人全体とホーム内研修を年間に数回行っている。事例検討会も行い、「禁止となる具体的な行為」を確認する機会にもなっている。日中は玄関の施錠はせずに職員の連携と見守りで安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等について、定期的に研修会を実施している。また、法人全体の研修会で、高齢者虐待防止について発表を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	権利擁護に関する制度の研修会を実施し、利用者個々に必要性がある場合は、関係者と協力し、活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約については、十分に時間を取り、各項目丁寧に説明している。また、不安や疑問点がないか確認しながら、納得を得た上で、契約されるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会に利用者や家族に出席していただき、意見を出していただいている。面会簿には、相談や意見、要望、苦情などを記入していただく工夫をしている。また、外部の相談窓口の案内や第三者委員の紹介を行っている。	毎月、利用者の状況報告を兼ねて便りを作成している。面会や電話連絡時、運営推進会議時に意見、要望を貰うようにしている。家族交流会も行い、家族とのコミュニケーションを図る機会を、多く作り、何でも言い合える関係を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者とスタッフが話しやすい環境を作り、朝夕のミーティングやスタッフ会議などで、スタッフの意見や提案を聞く機会を持っている。出された意見などは、管理者とスタッフ全員で検討し、運営に反映させている。	月1回のスタッフ会議は全員参加で、職員間のコミュニケーションが図られ、意見、提案も活発に出る。資格取得に向けた支援もあり、働きながら介護福祉士、ケアマネの資格を取っている。(介護福祉士12名、ケアマネージャー4名)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、スタッフ一人ひとりの生活環境や仕事に対する思いや希望、日々の努力や成果を常に把握し、働きやすく、やりがいや向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフが平等に研修に参加できるよう配慮したり、資格取得のための対策講座に参加してもらするなど、職員を育てる支援を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者がGH連絡協議会の役員であり、研修会や同業者の交流会の企画をし、多くのスタッフが参加して情報交換、ネットワークづくりに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時や入居時に、本人に面会したり、見学に来ていただいたりして、生活の様子や身体状況、不安なことなどを伺い、安心していただくよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に、現在の本人や家族の状況、不安や要望、困っていることなどを伺い、ホームでの生活や支援できること、家族に協力していただくことなどをお話しし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をお聞きし、今何が必要か、何を求めているのか見極め、他のサービスを含めた総合的な支援が出来ないか検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、共に支え合うという事を常に意識し、スタッフと利用者、利用者同士、家族と利用者、地域の方やボランティアと利用者、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからも、自宅にいらっしゃる時と同様に、利用者と家族との絆が途切れないように配慮し、常に利用者の状況を報告し、利用者の対応に困ったときなど家族に相談し、共に支えていくことを意識していただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のいきいきサロンや行事に参加したり、買い物に行くなどして、慣れ親しんだ場所へ出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	友人、知人の訪問や自宅に同行したり美容院、外出など家族の協力を貰いながら支援している。地域出身の利用者は「いきいきサロン」がなじみの人との交流の機会となっている。地域の人が訪ねて来易いように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士がいつでも井戸端会議ができる環境を作ったり、コミュニケーションが取りにくい利用者も、スタッフが関わり、社会性を保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて、相談に乗るなど、これまでの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を、直接利用者に聞いたり、日々の生活の中の言動や表情から汲み取っている。また、家族からも情報をもらい、思いや意志を把握するようにしている。	日常の会話で思いや意向が言える利用者に対しては思いがかなえられるよう支援している。重度化している利用者も多く、困難な利用者は家族からの情報、日々の行動や表情からくみとり把握、本人本位の視点に立って話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時や入居時に、本人や家族に、これまでの生活歴やサービス利用の経緯を伺い、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握、毎日の暮らしの中で、心身状況やできること、できないことの把握など、有する能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどう暮らしたいか、家族はどのような暮らし方を望まれているかを本人、家族、ケアマネ、スタッフ、主治医等で、話し合い、それぞれの意見を反映してアセスメントやモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	体力維持や生きがいのための役割などを課題に設けた個別の介護計画を作成、レクリエーションや「いきいきサロン」に参加している。毎月、個々の担当者によるモニタリングを行い、変化があればその都度、見直しを行っている。半年毎の定期的な見直しもされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、食事の量や排泄状況、バイタルや日常の変化や気づきなどを記入し、スタッフ間で情報を共有し、ケアや計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望に応じ、急な外出支援や通院介助など、柔軟に対応している。また、訪問マッサージの利用など、本人の希望に添うように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう、地域のスーパーや訪問美容、民生委員やボランティア、保健センターの保健師や歯科衛生士、緊急避難時の消防局や地域協力者など、地域資源と協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の、定期的往診のほか、急な体調不良時も、すぐに往診してもらえるなど、安心して適切な医療が受けられている。また、入居前からの専門医の受診が必要な利用者は、継続して適切な医療が受けられるよう家族と協力しながら支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。理事長である院長が毎週訪問し、健康管理を行っており、家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日常の関わりの中で、些細な体調変化を見逃さないよう早期発見に努めている。また、変化に気づいた時は、協力医療機関の看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、スタッフが付き添い、医療機関と情報交換を行っている。また、入院中も、面会に行き、安心して治療ができ、医療機関の相談室等とも連携を取りながら、早期退院ができるよう支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルについてのアンケートをいただいたり、重度化された場合や、終末期に近い場合は、状態が変化する度に家族や主治医と話し合い、家族が望まれば、ホームで看取るなど、チームで支援している。	入居時に口頭でホームの方針を説明している。身体状況に応じて方向性を話し合い、ホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。協力医療機関との協力体制もできていて、本人、家族の希望に応じた看取り支援を行っている。職員も研修に励み、共有している。	口頭で説明されているホームの方針をわかりやすく文章化し、今後に活かしていきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、応急手当や蘇生法の訓練を定期的に行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や防災教育、災害時対応の研修会を行っている。年一回の夜間避難訓練には、消防署や地域支援協力者の方々にも参加していただいている。	近隣や法人施設の協力体制の下、夜間想定避難訓練を行っている。積極的に利用者を含めた自主訓練も年に数回実施している。自動通報装置、スプリンクラーも設置済みで備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しく思いやりを持った声かけをし、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。また、個人情報の取り扱いも、研修を行うなどして、十分配慮している。	定期的に研修を行っている。理念に掲げている「明るい笑顔で心のこもったふれあいとその人らしさを大切に」を念頭に対応している。一人ひとりの人格を尊重、排泄等の声掛けや対応の仕方も配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせた声かけを行い、「はい」「いいえ」で答えられ、自己決定しやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日の体調や気持ちに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や好みに合わせ、外出時や行事の時には、特別にお化粧されたり、マニキュアをつけたりして、お洒落を楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や、昔懐かしい物、行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫し、手伝いができる方には、一緒に調理や片付けをしていただいている。	献立はそれぞれのユニット毎に作成し、栄養士のアドバイスを貰ってバランスのとれたメニューを提供している。家庭菜園もあり利用者も収穫を楽しんでいる。庭やテラスでお茶や食事を楽しむこともある。弁当持参の遠足や外食など食事を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量や好み、食事の形態など、状態や力、習慣、病歴などを考え、とろみをつけたり、ゼリー状にするなど工夫しながら、十分な栄養が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを理解し、毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけや介助を行っている。また、入れ歯の手入れや歯磨きの仕方など、歯科衛生士など専門家の講習を受けるなどして、取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、立位ができる方のトイレ誘導、声かけを行い、トイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。	介助を貰いながらも立位のできる利用者はすべてトイレ誘導、トイレでの排泄を促している。夜間はポータブルトイレ利用者もいるが危険防止の工夫をし、安全な介助に努力している。こまめなチェックで快適さを保つ支援をこころがけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食べ物、水分をゼリーで固めるなどの工夫や、適度の運動の声かけや介助など、一人ひとりに合わせた便秘の予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの入浴の好みに合わせ、スタッフとの会話を楽しみながら、ゆっくりと入浴されるよう支援している。	基本的な入浴日は決まっているが一人ひとりの希望や状態に応じて臨機応変に対応している。座位がとれたら複数介助で入浴支援している。重度化している利用者には足浴や部分清拭、全身清拭など実施し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが落ち着かれる場所を作り、好きな時に、休息したり、安心して気持ち良く眠られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を作成し、スタッフは、薬の目的、副作用、用法や用量など理解している。また、薬の変更時には、口頭、連絡帳に記載して確認し、服薬時は、必ず2人で確認してから与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を生かせるよう役割を持っていただき、利用者の希望を聞きながら、毎月行事を計画し、気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日のちょっとした散歩や買い物支援、また、花見や遠足、ソーメン流しやバイキングといった外食など、家族やボランティアの協力をもらいながら、出かけられるよう支援している。	買い物や散歩、季節の花見、地域の行事見学、いきいきサロンに参加している。外食や弁当持参の遠足など家族や地域のボランティア、実習生の協力を得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ、自己管理できる方は、自分でお金を所持され、買い物で使ったりされるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により、自由に電話したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや花を飾ったり、観葉植物を置くなどしている。また、空調や温度などにも注意し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	木の温もりが感じられる居心地の良い共有空間で、リビングから直接ウッドデッキにも出る事ができるので開放感がある。台所もオープンで食事の準備や匂いは五感を刺激してくれる。和室には堀ゴタツもおかれて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室の堀こたつなど、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具を持ち込まれ、好みの部屋にされ、本人が居心地よく安全に過ごせるよう工夫している。	使い慣れた布団、テレビ、位牌やお気に入りの飾り物、家族写真などが飾ってある。外に自由に出入りできて閉塞感のない造りになっていて木の温もりが感じられる居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない